

行政視察報告書

令和6年2月13日

大山町議会議長 様

教育民生常任委員会
委員長 門 脇 輝 明
(公印省略)

行政視察を実施しましたので、下記のとおり報告致します。

記

- 1 視察年月日 ①令和6年1月15日(月) 13時30分～16時00分
②令和6年1月18日(木) 10時00分～11時30分
13時30分～15時00分
- 2 視 察 先 ①西伯郡南部町
②東伯郡北栄町・湯梨浜町
- 3 視 察 目 的
①南部町：部活動の地域移行に向けた取り組み / 複合施設の施設視察について
②北栄町：公民館のあり方について
③湯梨浜町：公民館のあり方について

4 行程実績

日次	月 日	行 程
①	1月15日 (月)	大山町(発) === 南部町役場(法勝寺庁舎) -> キナルなんぶ === 大山町(着) 12:45 《13:30-16:00》 16:40
②	1月18日 (木)	大山町(発) === 北栄町中央公民館(北条) == (昼食) == 9:15 《10:00-11:30》
		=== 湯梨浜町中央公民館泊分館(泊) === 大山町(着) 《13:30-15:00》 16:00

5 計画変更の有無

有 無

6 参加者氏名

門脇 輝明、西本 憲人、池田 幸恵、大杖 正彦、
大森 正治(1/18欠)、杉谷 洋一、近藤 大介、米本 隆記

7 随行者氏名

野間 光(事務局)

8 その他(執行部からの参加は以下のとおり)

- ①西伯郡南部町
幼児・学校教育課(源光課長、浦木参事、中嶋部活動コーディネーター)
社会教育課(徳永課長、柏尾補佐)
- ②東伯郡北栄町・湯梨浜町
社会教育課(徳永課長、柏尾補佐、片山主幹)

①南部町：総務・学校教育課/人権・社会教育課

部活動の地域移行に向けた取り組み 複合施設（キナルなんぶ）の施設視察について

9 視察概要

始に天萬庁舎において、事前に通知した視察目的に沿って関係する事項の説明を受け、質疑応答を行った。その後、複合施設（キナルなんぶ）に移動し、施設の使用状況等を見学した。

部活動の地域移行については、令和8年度を目標に地域の実情に合わせた南部町型クラブ方式による移行の取り組みを進められている状況を中心に説明を受けた。

複合施設（キナルなんぶ）については、施設建設のプロセス等を丁寧に説明いただいた。

詳細は「質問事項提出書」及び南部町が作成された「南部町における部活動地域移行の取り組み」及び「令和5年度 行政視察質問事項の回答」のとおり。

10 視察の成果

「部活動の地域移行」も「複合施設の建設」も地域の実態に合わせて、現状と課題を整理し、関係者の理解を得ながら進めてこられたことがよくわかった。

本町における取組においても、大切なポイントとして認識を深めることができた。

詳細については、下記の各委員の意見のとおり。



◇南部町視察の各委員の意見

西本	<p>1、部活動の地域移行に向けた取り組み</p> <p>大山町と状況は違えど、かなり前向きに以前から取り組んでいると感じた。具体的には以下のとおり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H28年からの公用車での生徒移送 ・部活動指導員の配置増（R3～R5） ・拠点校方式部活動の検討実施予定 <p>他にも南部町として検討委員会との協力のもと目指す方向性がしっかりとあることもとても良いと感じた。</p> <p>まだ課題が多く100%の事例でないことは説明の中でも語られたが、取り組む姿勢として『こども達の放課後の充実した環境整備』を大事にしていることにとても感銘を受けた。</p> <p>大山町との違いは、スポnetという総合型地域スポーツクラブ施設があることがかなり有利だと感じた。</p> <p>2、複合施設（キナルなんび）の施設視察について</p> <p>何度も訪れたことある施設ではあるが、できた経緯をきくことにより作られた際の苦悩や想いを感じることができた。</p> <p>具体的には、H24年から話がでて足掛け10年建設に年数がかかったこと、最初は図書館で教育委員会が担当であったが、その後企画政策課、建設課、など多くの課を得て完成したことなどである。</p> <p>施設見学の時間帯は子ども達が学校終わりでたむろしており、学習や遊びなど普段の飾らない様子を見ることができてとてもよかった。このような場があるかないかで、地域の子どもの住みやすさは格段に変わると感じた。</p> <p>大山町でも同じような施設ができることを望むが、どこにどのような規模でいくつつくるべきかの議論はなかなか見通しが立たないと感じた。</p>
池田	<p>部活動の地域移行について、一度に移行ではなく目の前にある課題をできることから解決していく動きがあった。南部中学校と法勝寺中学校間の送迎についても公用車など今あるものを活用しつつ、部活動指導員の配置を拡充していき令和8年の部活動地域移行へと繋がっていた。</p>
大杖	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動の地域移行：大山町のように広範囲(広域)である場合、課題は別問題にある。先ず団体種目は各校合同チームを組む方式からスタートして、生徒(部員)の移動手段を解決する。 いずれにしても、部活動に携わった教員の努力など歴史ある形態を新しい形に切り換えるには効果的な取り組みを実施している地域の視察をして時間をかけて検討する必要がある。 ・南部町複合施設「キナルなんび」について：集中した総合型施設が良いか(町民には新しい住宅が集まる大山口周辺に望む声あり)、大山町では自主組織と各公民館(分館)などとの共同運営が円滑かつ有意義に実施されている点を考慮すると、地域町民の声を聞き、慎重に検討する事が求められる
大森	<p>①部活動の地域移行に向けた取り組み</p> <p>検討委員会を設置しての南部町型クラブ方式の実施に向けた取り組みは、本町でも参考になるところが多いと感じた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域移行する部活と学校が設置する部活を確定する。 ・地域移行する部活は、必然的に勝敗を競う大会に参加する運動部になる。文化部は学校に設置して(教職員による)顧問制にすること。 ・部活動指導員の確保は、R3年度から計画的に進め、毎年配置増を果たしている。 ・配置増ができてきているのは、スポ少・マスターズなどのスポnetなんびとの連携ができており、県の人材バンクを利用しているから。 ・大山町でも町内にある様々な運動団体との連携をすることによって、部活動の地域移行が可能になると思う。 ・合同部活動や拠点校方式の部活動の取り組みは、早晚大山町でも必要になる方法

	<p>として大いに参考になる。</p> <p>②複合施設（キナルなんぶ）の施設視察 旧西伯町側の公民館老朽化が建設の動機である。しかし、従来の”硬い“イメージの公民館ではなく、開放的で自由な雰囲気があり、様々な機能を持つ施設が集約されていて、いつでも何度でも利用したい施設である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館エリア…特徴あるセンターサークル、寝転がってもいい自由に本が読めるコーナーなどがあり、外部の音が全く聞こえない防音室には驚いた。 ・多目的ルーム…仕切って3部屋にすることができる。100~150人が収容可能。 ・中・小会議室、和室、調理室…生涯学習の場として利用できる従来の公民館機能の複数の部屋 ・カフェエリア…飲食ができる場所。すぐ隣には、くつろぎスペースやキッズコーナーがあり、親子や子ども同士がゆっくり過ごせる。 <p>このほかに、すぐ隣になんぶふれあい館が併設されている。この施設は旧図書館を活用して、1階を南部町の自然(主に生物)、文化、歴史がわかる博物館機能としている。</p> <p>大山町にもキナルなんぶのような複合施設がぜひ欲しいと強く感じた。どのような複合機能を持たせるかは町民の声を聴きながら検討するとして、とにかく、町民がだれでも自由に集える、いそいそと行ってみたいくなるような公民館機能を持つ複合施設を造りたい。場所は、名和小・中学校・さくらの丘保育園の周辺がいいかな…。</p>
杉谷	<p>1.部活動指導員の配置 部活動を地域移行に向けた取り組みはまだまだ試行段階だと思う。 今後の方向はスポ少の指導者のスライド配置は1一案だと思おう。</p> <p>2.キナルなんぶ 本町の周辺にこのような立派な総合的な施設があるとは知らなかった。 聞くとところによると全国から注目され視察者が多くあるようだ、遠くまで出かけなくてもこのような、りっぱな施設を視察できたことは喜ばしい。</p> <p>公民館機能の、ほか図書館、交流スペースからなる複合施設であるため 児童が安全に移動でき多くの児童の利用がある。最近の子供たちの活字離れやナルを耳にすることがあるがこのような環境で育つ子どもたちが小さい時から活字離れや図書館離れ日本の 寄与している。また、カフェエリアが併設されコーヒーやパンを食べることが出来る。</p> <p>ふれあい会館には板井裕生コレクションや法勝寺電車のジオラマや南部町の歴史文化に触れるエリアがある。図書館エリアではゆったりと寝込んだりリラックスした形で読書に親しむことができる。今回は生涯学習エリアでは他の会が開催されていて見学する事が出来なかった けども。 多目的ルームがあり中小会議室がありパーティションで小さくも大きくも出来る施設である。</p> <p>本町も公民館を作るならば町内 1カ所に施設を作り。高齢者でも楽しく施設利用が出来る。交通手段も考えるべきである。</p>
近藤	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動の地域移行 受け皿としてNPO(スポNet なんぶ)の役割が大きい、南部町がスポーツ振興の核としてスポNet なんぶを育成してきた成果であり、見習うべき取り組みだと感じた。 ・キナルなんぶ 木材をふんだんに使い、温かみがあって居心地のいい空間になっていると感じた。図書館部分は、子どもが少し騒いでも支障が少ないよう雑誌や絵本のコーナーを玄関側にまとめるなど、設計上の配慮も細かく行き届いていた。 町民が本に親しむ工夫について、本町のあり方を改めて考え直すべきと感じた。
米本	<p>部活移行はまだ試行段階と思われる。週4日のクラブ活動全日とも生徒の送迎をしているか不明である。大会は平日に行われるが引率に同行かどうか不明。きなるなんぶは西伯小に面し児童の利用が多いと感じる。建物は複合施設でありゆっくりできるカフェを併設するなど近年の傾向を取り入れていた。</p>

②北栄町:北栄町中央公民館

公民館のあり方について

9 視察概要

事前に通知した視察目的に沿って関係する事項の説明を受け、質疑応答を行った。

北栄町からは、独自の住民参加の取り組みである「ほくえい未来ラボ」を活用して公民館建て替えの検討を行ったことを中心に説明があった。

詳細は「質問事項提出書」及び「ほくえい未来ラボ～北栄町の未来を創る研究所～」、「北栄町公民館のあり方について」を参照。

10 視察の成果

住民の意見を行政に反映させる手法の一つとして、「ほくえい未来ラボ」は、今後の公共施設の更新等を検討する上で参考となる取り組みであった。

今後、本町の余剰町有施設の縮小、削減を円滑に進める上で、町民が自主的に判断することが、大切になると認識した。

詳細については、下記の各委員の意見のとおり。



◇北栄町視察の各委員の意見

西本	<p>北栄町の視察のポイントは、先進的な公民館がすでに建設されているわけではないが、議会からのアドバイスを元に、住民を巻き込んだ公民館建設検討の仕組み”ほくえい未来ラボ”の取り組みが素晴らしかった。</p> <p>特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2町合併の北栄町は2つの公民館がある。 ・大栄分館は放課後事業クラブ、こどもミュージカル、美術展、北栄ふるさとカルタなど、こどもの居場所づくりや文化活動が活発 ・以前、全協で公民館建設設計予算を説明時「少人数での検討委員会ではなく住民の意見を幅広く聞いた方がいい」と意見をもらう ・議会の意見を元に設計予算案を取り下げる ・鳥大の先生に相談してPBL方式を提案してもらい”ほくらボ”の始まりとなる。 <p>当初、住民の意見を聞きすぎることに行政としては抵抗があったらしい。理由としてはやたら豪華になっていくなど、財政や今の町に見合っていない提案をされる懸念があったためである。</p> <p>メンバー募集をすると16人の住民の手あげがあったらしい。4チーム4人ずつで調査研究を始めて最後に提案してもらった（提案内容のクオリティが高くとても素晴らしかった。</p> <p>各チームに行政職員が2名ずつ入っているのもとても良い取り組みと感じた。</p> <p>大山町の未来会議と同じような手法だが、北栄は公民館建設の提案後も別テーマで毎年住民参画のPBLほうしきほくらボを導入していくということで、本町はアイデアはいいが検討委員会の進め方に問題があることが多いので是非見習いたい事例であった。</p>
池田	<p>教育委員会部局の活動でありながら、町長部局である副町長が『ほくえい未来ラボ』の代表であることが、町全体の取り組みにつながっていた。予算についてもスムーズにつけることにつながっていた。</p> <p>ほくえい未来ラボにて出た住民の意見を全て取り入れるのではなく、予算・規模などを大山町でも10年プラン作成時に公募で多くの人に参加しており、よく似た取り組みが行われていたのを思い出した。</p>
大杖	<p>北栄町、中央公民館大栄分館建替検討。建替えがなぜ必要か。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①老朽化と耐震基準が指標を下回っており必須の状況。 高齢者中心から、若者・子育て世代も気軽に利用できる複合施設。 ②町の意向を副町長が「公民館施設のあり方検討会」「ほくらボ」に丁寧に説明。 ③議会からはオブザーバーとして参加、全員協議会は「幅広く町民の声を聴くよう」指摘。 ④公民館施設のあり方検討会の報告書(答申)を行政でまとめ、計画案を議会に提案する。 <p>北栄町の取組みは、行政・町民(検討会)・議会がそれぞれの立場と機能を効果的に発揮している。</p>
大森	<p>(欠席)</p>
杉谷	<p>北栄町には二つの公民館があるが、大栄分館は昭和46年に建設され老朽化や耐震対策が必要となり、「あり方検討委員会」が設置され、委員には大学教授・社会教育委員・自治会長、女性団体が構成し検討された。</p> <p>これに基づき町内の「ほくえい未来ラボ」4チームが県内外の先進地を視察し、町民目線で細部まで関わりを持ち答申された。</p> <p>今後は町財政を考え、国からの補助金を利用し公民館の建設されるだろう。</p> <p>また、「ほくえいラボ」により、今回の公民館建設だけでなく、今後は様々な行政課題に対して、町民目線に基づき合意形成をしながら問題解決を期待している。</p>
近藤	<p>ほくえい未来ラボの取り組みが素晴らしかった。本町においても、生きた社会教育の実践として、町民が参画する「公民館づくり」を進めるべきと感じた。</p>
米本	<p>住民参加方法は10年プランを作った方法と同じではないかと感じた。ただ、町民にお願いして参加をすることはどうかに行こうとした時どう思う。自身の公民館の意識がどうかと感じた。ここでも行政の考えと違う方向になりそうになった時の修正はどうしたのか？</p>

③湯梨浜町:湯梨浜町中央公民館 泊分館

公民館のあり方について

9 視察概要

中央公民館長から令和4年3月に完成した施設の案内・説明の後、研修室において事前に通知した視察目的に沿って関係する事項の説明を受け、質疑応答を行った。

施設は従来の公民館を老朽化のため建て替えたもので、特色としてはトレーニングマシンが設置された部屋（みんなのげんき館）があり、別棟の図書館とは渡り廊下でつながっている。近くには小学校がある。

詳細は「質問事項提出書」及び湯梨浜町が作成された「大山町議会 教育民生常任委員会行政視察研修」を参照。

10 視察の成果

「グラウンド・ゴルフの発祥地」である、地域の特色を生かした町行政の一環として公民館活動も位置付けられていた。

本町の公民館整備においても、地域性をしっかり考慮することの大切さを認識した。

詳細については、下記の各委員の意見のとおり。



◇湯梨浜町視察の各委員の意見

西本	<p>令和4年4月に完成したばかりの中央公民館泊分館（みんなのげんき館）の見学を行った。</p> <p>3町合併の町では、合併時に公民館のことを一度整理しており、今回の建て替えは老朽化したことが原因で建て替えに対する反対意見はとくには出なかったらしい。</p> <p>特徴としては</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旧3町の公民館自治区の単位の違いがあったらしい（町全体では7つの自治区→大山町の10地区みたいなもの） ・グランドゴルフ（以下GG）発祥の地として、スポーツの町を掲げて、スポーツの日をつくったり、海外でのGGの啓発など力を入れて行っている印象 ・泊分館にもジム機能をつくり利用できるようにしている。（平均10-15人/日利用） ・女性用トイレには姿見が多く取り付けられ化粧直しなどの利用がしやすいそうであった。 ・利用増のためスタジオプログラムも始めたが利用者があまりいないように感じた。 <p>施設は新しくいい施設であったが、公民館運営が少し古い体質で行っていると感じた。</p> <p>今の時代にあったソフト運営を取り入れて行えば、程よいハードができたためもっと利用が伸びる可能性は感じた。</p>
池田	<p>町村合併前の公民館体制旧羽合町と旧東郷町は地区公民館制度、旧泊村は部落公民館制度と異なっていたが、合併後は旧町に一つの公民館体制の話し合いができていたのが、スムーズな公民館改築に繋がったと感じた。スポーツと健康とフレイル予防への取り組みが素晴らしかった。</p>
大杖	<p>45年経過した老朽化により建替えが行われた施設。スポーツで町を活性化する町の方針を受け フィットネスやダンス練習が出来る多目的室、NPO 法人が利用し、みんなの食堂(子ども食堂)を 運営可能な複合型である。</p> <p>昨年オープンの新しい施設「湯梨浜みんなのげんき館」はグランドゴルフ発祥の地を国内や 海外に名を広め、スポーツによる町の活性化を狙うリスクを恐れない挑戦は見習う処が大きい</p>
大森	<p>(欠席)</p>
杉谷	<p>とまりはグランドゴルフの日本発祥の聖地でもあり。「食と運動」による健康づくりで「健康寿命の延伸」を目指している。</p> <p>近くにある湯梨浜町中央公民館泊分館は、築45年が経過し潮風や地震などの影響により、経年劣化し外装塗装の剥離や、ひび割れより、危険な状態であり、耐震補強が以前から旧泊村に公民館は必要と決まっていたので、問題なしに建て替える事が出来た。</p> <p>公民館には、色々な研修室や健康器具などが設置されている。</p> <p>その中で「湯梨浜みんなのげんき館」の運営は創生交付金が活用され、トレーニングマシンはコロナ交付金で設置され、そのマシンを使用して高齢者も利用でき喜んでいる。</p> <p>また、公民館事業の利用状況は、高齢者の利用はあるが近くにある小学校の児童の利用は少ない。</p> <p>すんなり出来た公民館だったので建設に至る苦労話しは聞けなかった。</p>
近藤	<p>泊分館の建設は、北栄町や南部町の例に比べると建設に至るまでの住民の関わり方が少ないように感じた。社会教育として現役世代にアプローチしていく姿勢もあまり見られず、新しい施設であるにも関わらず、町民(地域住民)があまり満足してないような印象を受けた。</p>
米本	<p>立派な公民館を見させてもらった。町民の意見を取り入れての設計であるが利用者は限定されていると感じた。ここも複合施設になるのにトレーニング室を入れているのかどうか不明である。</p>